

天理ラグビーの神髄を見せた！

“完全優勝”で35年ぶり関西制覇

悲願の関西制覇が懸かった大一番、漆黒のジャージーが躍動した。天理大学ラグビー部は4日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で行われた関西学院大学との一戦に臨んだ。勝者が優勝となる試合で、天理大は庄券の5度目のリーグ制覇を成し遂げた。

天理大ラグビー部



悲願のリーグ制覇を成し遂げ、喜びに沸くフィフティーン（4日、近鉄花園ラグビー場）

後半ロスタイム。相手したバスをインターセプトした松井謙斗選手（1年生）がダメ押しのトライを決め、コンバーションキックも決まり、ノーサイド。その瞬間、天理ファイフティーンに歓喜の笑みが広がった。

低迷期乗り越え

強豪ひしめく関西Aリーグで、過去4度の優勝を誇る同部。昭和48年からリーグ3連覇を成し遂げ、黄金時代を築いた。

59年、全国大学選手権で初めて国立競技場のピッチに立って以降、栄光から少しづつ遠ざかっていった。平成3年、リーグAへ。翌4年には、まさかのCリーグへと降格した。

その後、天理復活に向けて白羽の矢が立ったのが小松節夫監督（47歳）だった。上位リーグへの入れ替え戦に挑み続け、13年、10年ぶりにAリーグへ復帰。昨年は、25年ぶりにリーグ2位へ返り咲いた。

掲げた今季は、開幕戦を白星で飾ると、その後も着実に勝利を重ね、最終戦を残して平均得点61・5、平均失点10・2など、攻守ともに

他校を圧倒するチームに成長した。

その要因は、スタンダードの立川理道選手（3年）、雨センターのアイセア・ハベア選手（3年）、トニシオ・バイフ選手（1年）のフルバック陣のパワーアップが、ディフェンス力を底上げした。「ただ体重を増やすのではなく、小さくて強いオフオーデを目指す」との小松監督の思いから、例年以上に

トスリーを軸とする、バランス感覚を要するラグビーを実現するよう努めている。さらに、小柄ながら当たる負けをしないフォワード

の立川理道選手（3年）、雨センターのアイセア・ハベア選手（3年）、トニシオ・バイフ選手（1年）のフルバック陣のパワーアップが、ディフェンス力を底上げした。「ただ体重を増やすのではなく、小さくて強いオフオーデを目指す」との小松監督の思いから、例年以上にトスリーを軸とする、バランス感覚を要するラグビーを実現するよう努めている。さらに、小柄ながら当たる負けをしないフォワード

陣の攻撃が冴えた。ハーフの立川選手を起用し、今季リーグ最多のトライを誇るバイフ選手をはじめ、バックス陣が3トライを奪取。24・0で前半を折り返すと、後半に入ても相手に流れを渡さなかつた。結局、前半で計8トライを奪つた庄券の戦いぶりで、関東の座を25年ぶりに奪回した。

立川直道キャブテン（4年）は、先輩たちの悔しい思いを晴らせて良かった。大学選手権では、関西の代表として関東のチームを倒し、国立のピッチに立ちたかった。そして、全国の舞台で天理ラグビーを見せたい。そして、全国の舞台で天理ラグビーを見せたい。迎えた最終戦。相手は、この2年間「勝てば優勝」という一戦で敗れてきた関西学院大。試合前、小松監

督は、「やつてきたことをじつかり意識し、勝つて関東勢に挑戦しよう」と、選手たちを送り出した。

「天理らしさ全国でも」

試合は前半9分、天理大

がボーラーの山路和希選手（3年）が先制トライ。や

や劣勢と見られていたフオ

ワードで真っ向勝負を挑む

意外な展開が始まった。

小松監督が「相手の武器

はボーラー。力勝負に自

信のある相手だからこそ、

モールからの得点を狙つ

いた。あれでチーム全体が

勢いで乗つた」と話した通

り、その後は「天理ラグビ

ー」の武器であるバックス

陣の攻撃が冴えた。

ハーフの立川選手を起

用し、今季リーグ最多の

トライを誇るバイフ選手を

はじめ、バックス陣が3ト

ライを奪取。24・0で前半

を折り返すと、後半に入つ

ても相手に流れを渡さなか

つた。結局、前半で計8

トライを奪つた庄券の戦い

ぶりで、関東の座を25年

ぶりに奪回した。

立川直道キャブテン（4

年）は、先輩たちの悔しい

思いを晴らせて良かった。

大学選手権では、関西の代

表として関東のチームを倒

し、国立のピッチに立ちた

かった。今年から始め

た早朝練習では、80分を走

り続けるランニングラグビ

ーにも取り組んだ。

迎えた最終戦。相手は、

この2年間「勝てば優勝」という一戦で敗ってきた関

西学院大。試合前、小松監

督は、「やつてきたことをじ

つかり意識し、勝つて関東

勢に挑戦しよう」と、選手